

各 位

平成 19 年 10 月 15 日

会 社 名 株式会社 神戸製鋼所  
 (URL <http://www.kobelco.co.jp>)  
 代表者名 代表取締役社長 犬伏 泰夫  
 (コード番号 5406 東証、大証、名証各一部)  
 問合せ先 秘書広報部長 佐川 豊  
 (TEL 03-5739-6010)

## 平成 20 年 3 月期 業績見通しについて

平成 19 年 7 月 31 日の「平成 20 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況」で公表いたしました平成 20 年 3 月期の業績予想につきまして、下記のとおり見直しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 20 年 3 月期の業績予想 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

##### 【連結業績見通し】

(億円)

		売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
今回見通し(A)	中間期	10,400	950	750	440
	通 期	21,500	1,950	1,500	900
前回見通し(B)	中間期	10,200	800	600	350
	通 期	20,800	1,830	1,400	850
増減額(A-B)	中間期	+ 200	+ 150	+ 150	+ 90
	通 期	+ 700	+ 120	+ 100	+ 50
増 減 率	中間期	+ 2.0%	+18.8%	+25.0%	+25.7%
	通 期	+ 3.4%	+ 6.6%	+ 7.1%	+ 5.9%
前期実績(平成 19 年 3 月期)		19,102	2,086	1,832	1,096

##### 【単独業績見通し】

(億円)

		売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
今回見通し(A)	中間期	6,260	520	490	250
	通 期	12,900	1,050	850	470
前回見通し(B)	中間期	6,200	420	380	170
	通 期	12,600	970	780	420
増減額(A-B)	中間期	+ 60	+ 100	+ 110	+ 80
	通 期	+ 300	+ 80	+ 70	+ 50
増 減 率	中間期	+ 1.0%	+23.8%	+28.9%	+47.1%
	通 期	+ 2.4%	+ 8.2%	+ 9.0%	+11.9%
前期実績(平成 19 年 3 月期)		11,547	1,198	1,164	709

## 2. 見直しの理由

当中間期の連結売上高は、鉄鋼関連事業において堅調な需要を背景に鋼材販売価格が改善したことや、好調な需要が継続している建設機械関連事業において販売台数が増加したことなどから、前回見通しを上回る 1 兆 400 億円程度となる見通しとなりました。また、利益につきましては、鋼材の価格改善及び建設機械の販売台数増に伴う増益に加えて、エンジニアリング分野を中心とした機械関連事業におけるコストダウンもあり、当中間期の連結営業利益は前回見通しを上回る 950 億円程度、経常利益は 750 億円程度、中間純利益は 440 億円程度となる見込みです。

下半期につきましては、米国景気の減速や中国メーカーの供給能力増加による市況への影響などの懸念材料があるものの、各事業の需要環境は国内、海外ともに総じて堅調に推移するものと予想しております。この結果、通期の連結売上高は、前回見通しに比べて増収の 2 兆 1,500 億円程度、営業利益は増益の 1,950 億円程度、経常利益も増益の 1,500 億円程度、当期純利益は 900 億円程度となる見通しです。

単独業績につきましては、当中間期の売上高は前回見通し比増収の 6,260 億円程度、営業利益は増益の 520 億円程度、経常利益も増益の 490 億円程度、中間純利益は 250 億円程度となる見通しです。また、通期の売上高につきましても前回見通し比増収の 1 兆 2,900 億円程度、営業利益は増益の 1,050 億円程度、経常利益も増益の 850 億円程度、当期純利益は 470 億円程度となる見通しです。

以 上

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。